

早稲田大学 常任理事 大塚 宗 春



ただいまご紹介いただきました常任理事をしております大塚と申します。

本日は、ご多忙のところ多数お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。この産業経営研究所のアカデミック・フォーラムも、今年で第20回目を迎えることになりました。回を重ねるごとに大きな成果を得ているものと考えております。

今回のテーマは、「年金の課題 生産力人口減少と高齢化のもと、年金本来の機能を果たせるのか？」で、浅野幸弘先生、臼杵政治先生、小黒一正先生のお三方を迎えまして、ご講演いただきます。大学を代表いたしまして、講演者の方々に心から御礼を申し上げます。ご講演につきまして、本学の谷川寧彦商学学術院教授をモデレータとするパネルディスカッションを行います。

今回のアカデミック・フォーラムは、多くの皆様方にとって関心の高い年金と少子高齢化の関係を見直すことを目的としております。本フォーラムの議論から触発される提言が我が国の年金制度改革に貢献できるものと期待をしております。また、本日お集まりいただきました皆様の今後の事業展開や個人個人の年金に対する関心事に必ず役立つお話がいただけるものと存じております。

ところで、早稲田大学は今年、創立130年を迎えております。そこで、今生まれた子供が早稲田大学に入る、すなわち20年後の創立150周年という先を見て、その頃の早稲田大学はどのような姿であるべきか。世界に貢献し得る大学であり続けるためには、早稲田大学はどのようなことを今これから行っていかなければいけないかと考え、ビジョン150という名前でもって将来構想の策定を行っております。構想実現のための具体的なアクションプランというものを各学術院でもって考え、20年後に向かって一步一步進めていきたいと今考えているところです。

こういった長期のビジョンを策定するという背景には、少子高齢化と生産人口の減少という本日の年金のテーマと共通する、言ってみれば課題というものがあるのではないかと考えております。早稲田大学も国際的な大学として、この20年間でさらに発展して、世界に貢献する大学であり続けるためにいろいろな面で努力をしていきたいと考えております。今日ご参集の皆様方からのご協力がいただければ大変うれしく思っております。

最後になりますが、本日のフォーラムが有意義なものとなりますように祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。